

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		運営委員会事業				②事業番号		7402									
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		平成 14 年度		⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし							
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 条例		○ 規則		○ 要綱		○ 計画等		○ その他		法令等の名称: 泉南市立青少年センター運営委員会規則			
⑦実施手法		○ 直営		○ 全部委託		○ 一部委託		○ 補助・負担		○ その他							
⑧関連予算科目コード		款		9		項		5		目		5		細目		3	
⑨担当部名		教育委員会		⑩担当課名		青少年センター						会計		一般会計			

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 青少年センター運営委員		① 委員数		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
運営委員会を開催し、昨年度事業の報告及び本年度の事業計画の提案を行い、助言をいただく。		① 委員会開催数		回	
②		②			
③		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
利用者にとって、より良い環境と活動を創作する。		① 提案数		件	
②		②			
③		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
委員会での意見交換や委員の助言により、センターの管理運営のほか、健全な青少年の育成が図られる。		政策(章)		1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち	
その他の体系上の位置付け (1—4—3—4): 子どもの居場所づくりの促進を図る。		施策大(節)		4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします	
		施策中		3 青少年、子どもの健全育成	
		施策小		3 ネットワークによる青少年の育成	

【2】各種指標値、事業費の推移

指標名		単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	委員数	人	14	14	14	14	14	
対象指標②								
活動指標①	委員会開催数	回	1	1	2	2	2	
活動指標②								—
活動指標③								
成果指標①	提案数	件	38	40	60	60	60	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
事業費	投入人員	人	0.31	0.28	0.30	0.30		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	2,490	2,248	2,432	2,432		
	人件費(投入人員*単価)	千円	2,490	2,248	2,432	2,432		
	直接事業費	千円	38	23	45	75		
	総事業費	千円	2,528	2,271	2,477	2,507		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	2,528	2,271	2,477	2,507		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	規約の改正があり、事業対象者が市内全域に広がったことに伴い、泉南市立青少年センター及び児童館設置条例により、第三者(学識経験者及び教育関係者)を含む運営委員会の設置を行った。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	平成30年度より、さらなる助言を頂けるよう運営委員会の開催日数を増やすこととした。今後は、青少年センターの移転に伴い、青少年が利用しやすい施設となるよう運営すべく、運営委員会と並行して、利用児童からなる青少年運営会議(仮称)を設置し、子どもたちの声を吸い上げ、運営委員会に諮っていく。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	委員による助言や意見を反映し、より良い施設の運営を図らねばならない。
②税金を使って達成する目的ですか。(市が関与する必要がありますか。市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	学識経験者や学校関係者等から構成される運営委員会での意見を事業に反映させることは、最小の経費で最大の効果を求める行政の運営の根幹に資するものである。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。(他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	他部署の委員会と比較しても適当である。全事業を総括して、その意見を市民ニーズに反映されるように講座の組み立てを行っている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	市民の視点から様々な提案をいただいている現状を考えると、第3者的見地からの意見をいただく機会が減少すると考える。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

A

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	委員から有益な情報・意見が出されており、またその意見を取り入れた事業の組み立てを行っており一定の効果が得られている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。(事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	可能であれば、より市民の視点にたった意見を得られるように、保護者代表や講座講師の代表者などが委員として参加していただけるように、考慮していきたい。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし ウ. できる イ. できない	青少年センターの運営、管理に関する委員会であるため、他部署との統廃合は難しい。

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。(業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	今後、新たな青少年センターの在り方を協議する必要性から、これ以上のメンバー、回数の削減は困難である。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。(歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	—

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当
	A	青少年センターのあり方に沿った、効果的な館運営が行えるよう、運営委員会を構成する委員の選定、必要な運営委員会の開催数を位置づける。	B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	<p>ア. 現状のまま継続</p> <p>イ. 見直しのうえで継続</p> <p>ウ. 終了 (___ 年まで)</p> <p>エ. 休止 (___ 年から)</p> <p>オ. 廃止 (___ 年から)</p>
イ	<p><今後の展開方針></p> <p>a. 重点化する(集中的なコスト投入)</p> <p>b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える)</p> <p>c. 効率化する(コストを下げる)</p> <p>d. 簡素化する(規模を縮小する)</p> <p>e. 統合する(他の事務事業と統合する)</p>
①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—